

巨樹・巨木シリーズ-20 静岡県の巨樹・巨木-1

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安治

前号では山梨県の針葉樹を中心に進めたが、今号ではU氏の資料をもとに、巨樹の宝庫といわれる静岡県の広葉樹をご紹介します。U氏の足取りは伊豆半島をくまなく探査し、西へ向かい、富士の裾野までの範囲に生息する巨樹58本を、三日間で制覇している。相変わらずエネルギーギッシュなU氏に敬意を表し、筆を進める。

写真番号-1 春日神社のクス

樹齢850年 樹周10.07m 樹高21m 田方郡函南町大竹 静岡県指定天然記念物

この木を見ると、どっしりと四方に「根張り」、胴はしっかりと締め、中央部には「うろ」を持ち、無数の枝を天に向かって伸ばしている。うろのまわりには、緑の葉が茂っており、ひげを蓄えた威厳あるひとの顔に見えた。樹齢850年、時は源平合戦の頃と思えば、力強い武将の姿が目につく。

樹周は胴の締まったところを測定したもので、四方に張っている根の部分で計れば、20メートルはあろうかといわれている。

このクスの脇には東海道新幹線が走っている。工事の際には、幹が切られたという。新幹線はクスの枝葉をかすめながら、ひっきりなしに轟音を立てて通過している。人間では耐えられない環境だが、クスの樹勢は良好という。実に逞しいではないか。

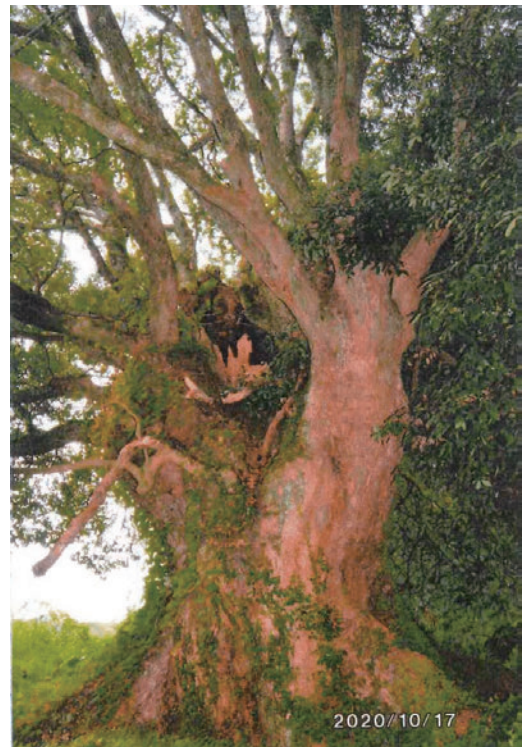


写真1 春日神社のクス

写真番号-2 阿豆佐和気神社(熱海来宮神社)の大クス

樹齢2000年以上 樹周18.5m、樹高36m 熱海市西山町 国指定天然記念物

日本最古の大クスといわれている。

クスノキは延命長寿の象徴と言われるが、この木が芽生えたのは弥生時代？ではないかと思うとあまりの時の長さに頭がくらくらする。巨樹・巨木はそのほとんどが古木であり、樹齢1000年はざらにある。神社の社木であれば、神様と同一のものとしてあがめられ、樹木そのものが神格化し神社と一体化して

神そのもととなっている。古い樹木の樹齢はどのように確かめるのだろうか。調べて別の機会にご紹介します。

以下は熱海市観光ガイドより。

2001年環境省の緑の国勢調査によると、この大クスは日本全国3位の巨樹となった。日本で3番目の大きさを2000年以上も保ってきたこのクスには、ただただあっぱれ！である。

尚、神社の境内には、1300年超の樹齢をもつ別の大クスもある。

神社の名称は、もとは来宮神社であったが明治維新のあとに「阿豆佐和気神社」となった。

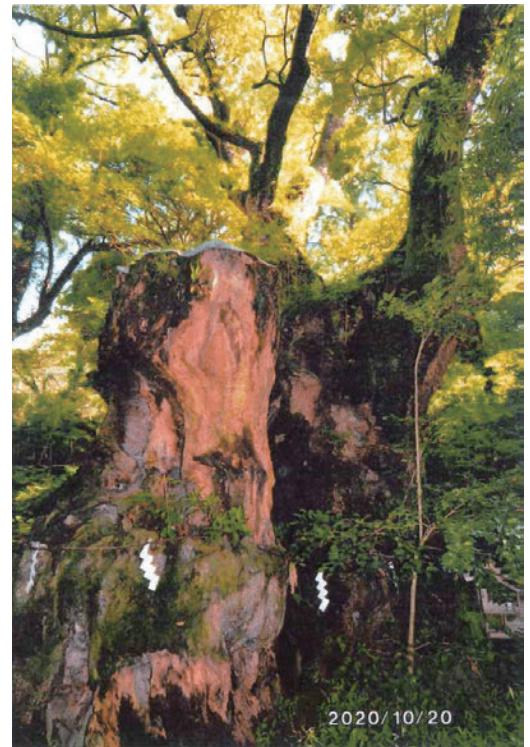


写真2 阿豆佐和気神社の大クス

写真番号3 ^{へだ}部田神社のコブ付き大クス

樹齢300年以上 樹周6.83m 樹高28m 沼津市戸田町 沼津市指定天然記念物

クスのコブは高級家具の材料として大変珍重なものである。コブは根張りの周囲に数多く成長するので根張りに合わせて四方へ広がり、やがて幹の根元がどっしりとした大きな円錐形を伏せたようなかたちになる。円錐形の大きな木ほど、コブが多くついている。ところが、この木は、根張りからやや上がった幹に赤ちゃんを抱いているように大きなコブを付けている。この大きなコブの中に細かいコブがついている。ここで、コブの説明を。木材や、とはいっても銘木屋、ツキイタ屋の領域の話である。

コブとは、細かい節、つまり「葉節」と言われる「細かい節」が無数についているものである。しかも、その葉節は、「生き節」でなければならない。「死節」は、価値がない。クスに限らず、どんな木材でも節はつきもの、節は木材の生きてきた証拠である。生き節は木材そのものとして扱われている。「クスのコブ」も、生き節でなければ意味がない。クスノキの「白い平面に茶色のコブ」が行儀よく無数に並ぶさまは素晴らしいものである。使用箇所としては、家具の飾り板が断然多い。自然の造形の巧みさには感服するばかりである。



写真3 部田神社のコブ付き大クス

ところが「死に節」は、木が死んでいる証拠なので、節の部分から、木は壊れていく。崩れていく。つまり「割れたり、折れたり」するわけで、「木」としての機能が失われ、「廃材」つまりゴミとして、チップ、または燃やされる事になる。この木のコブが生き節であることを願うのみ、オット、「木材や」さんに、クスの講釈をしてしまった。ご寛容のほどを。

コブの付いているクスが数本、この部田神社にはあるという。コブができる原因は、主に2つあるらしい。1つには、細菌が木の幹や枝に入り込み、木の抗体と細菌が闘った跡が盛り上がったというもの。もう1つは、枝に傷がついたり、折れたところを木が修復しようと盛り上がったというもの。細菌が原因の場合は、昆虫がその細菌を運ぶと考えられているので、部田神社周辺にコブを持つクスが何本もあるのかもしれない。

写真番号4 ましやまでら 益山寺の大カエデ

樹齢860年位 樹周4.0m 樹高27m 伊豆市修善音町堀切 静岡県指定天然記念物

県下最大の大カエデとある。伊豆市教育委員会案内板によればこのお寺には大カエデと並んで大イチョウがある。大イチョウは伊豆市文化財指定で樹齢350～400年とある。ここでは大カエデのご紹介をする。

益山寺は真言宗の大本山である高野山の末寺であり、空海の創建で御本尊様の観世音菩薩は自作と伝えられている。境内の参道には百体の観音の石仏があり県内でも珍しい石仏群集地でもある。

このカエデをつくづく眺めると(写真だがというか写真だからか)何故かラジオ体操を思い出した。「第2体操の9番」である。体をねじり反らせ、斜め下に曲げる運動を元気づく体操している人のように見えた。幹は右斜めに倒し、2本の枝は両腕を伸ばし真ん中にはしっかり顔がついている。このように元気づくラジオ体操をしている人に見えたのは筆者だけだろうか。

ここで本題を外れてラジオ体操について一言。

私事で恐縮ですが、筆者は毎朝ラジオ体操をしております。木場移転跡地の木場公園北広場には毎日100人ほどの老若男女とともに、ラジオ体操で汗を流



写真4 益山寺の大カエデ



写真5 ラジオ体操第2の9

しております。この2月で92歳となりました。元気でいられるのもラジオ体操のお蔭と心得ております。読者の皆様でまだラジオ体操をされてない方、ぜひやってみてください。

写真番号6 日枝神社のカゴノキ

樹齢不明 樹周4.37m 樹高21m 伊豆市修善寺町修善寺

カゴノキは、このシリーズでも何回か登場したが、木肌の模様がそのまま樹木の名前になっている。カゴノキは、成長すると黒っぽい樹皮の皮が剥がれ落ち、新しい樹皮のところと黒い樹皮がまだら模様になる。このまだらが、白い斑点の混ざる鹿の背中に似ていることから、「鹿の子」→「カゴノキ」と呼ばれるようになったという。

筆者がこの木で見たのは、この幹が大きく広がる二股の部分に、名のある武将が戦場（いくさば）で「われこそは…なり、^{であえ}出会え、出会え、出会って勝負せよ」と駿馬を駆使し戦場をかけ巡る姿である。しかもこの兜は、立派な「たてもの」*付きの兜に見えたのであるが、飛躍しすぎだろうか。

*：「たてもの」とは武将の兜につく二本の剣のような金具（ウィキペディアより）



写真6 日枝神社のカゴノキ